

【 2025 年度 聖隸こども園・保育園 施設関係者評価 】

園名 聖隸こども園ひかりの子

目的：浜松磐田地区の聖隸福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、
お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2025 年 11 月 20 日

評価者 園名 市野与進こども園
役職 園長 氏名 鈴木 勝子

評価者 園名 聖隸こども園こうのとり富丘
役職 園長 氏名 二村 郁枝

【保育・教育理念】

聖隸の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

子どもたち一人ひとりと目線を合わせながら声をかけたり、丁寧に接したりと、愛情をもって保育していることが感じられた。子どもたちとの対話から活動を計画したり、保育を進めたりする場面があり、子ども一人一人に目を向け、子どもの気持ちに寄り添いながら保育をしていることがうかがえた。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

子どもの目線に立って環境を整えたり、子どもたちの声を聴きながら保育を進めたりする等、一人一人が心地よく過ごせるよう、また子どもたちが主体的に過ごせるよう考えられている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

個人情報の取り扱いについて、入園時に個別に説明を行い同意書をもらっている。
個人情報に関する書類等は事務所内で適切に管理している。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

苦情解決のマニュアルに沿って適切に対応している。
コドモンや担任が受け付けたご意見についても、園長・主任へ報告し適切に対応している。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

看護師と連携を図りながら園児の健康管理や感染防止対策に努めている。
感染状況については、事務所前のホワイトボードにて保護者にも共有し、家庭とも連携しながら対応している。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

避難訓練は毎月実施し、災害時の避難体制について確認や訓練を行っている。
また、夏の時期には熱中症や水難事故を起こさないように対策を行うと同時に、プール遊び前に AED 講習や救命救急訓練を行ったり、医師によるアンビューバックの使い方講習会を行ったりする等、緊急時の対応訓練も行っている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

定期的に点検を行っている。
修繕が必要な箇所についてはすぐに確認し、必要に応じて業者へ修繕依頼を行う等適切に対応している。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

玄関や廊下等の共有スペースも掃除が行き届いており、気持ちよく過ごせる環境であった。また、季節の花が植えられていたり、子どもたちの制作物が飾られていたりする等、保育の環境として工夫され、整えられている。手作りの物や布で作った物が飾られたり、家具のカバーとして使用されているなど、温かみが感じられる環境である。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

年齢発達に合った玩具が、子どもたちの手が届く位置に配置されていた。
手作りの玩具や、子どもたちの興味・関心に沿った玩具もクラスごとに工夫して置かれており、目の前の子どもにも合わせた環境である。
また、子どもの制作物や楽しんでいる歌等が掲示されており、園と家庭とが一緒に子どもの育ちを喜べるような工夫がされていた。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・意思がしっかりと受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・さまざまことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやル

ールの大切さを味わう

4歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特性を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

どのクラスにおいても、目の前の子どもたちに合った保育が展開されていた。

乳児クラスでは1対1の関りを大切に、ゆったりとした時間と空間の中で保育が行われていた。職員による関りも、子どもの傍で目線を合わせながら穏やかな口調で声をかける等、全体でなく一人一人の子どもに向けて声掛けされていた。また、個別に水分補給や手足の清潔を意識できるよう関わる等、職員主導ではなく、子どもが自ら衛生管理に努められるよう配慮されていた。

幼児クラスでは、子どもの声を聴きながら保育を計画したり、職員も遊びの中に入り込み一緒に活動を楽しむことで子どもの感情に共感しながら保育を展開している様子が伺えた。

【全体を通して】

職員と子どもたちの信頼関係のもと、目の前の子どもたちに合った保育が展開されている。手作りおもちゃや布を使った飾りも多く、穏やかで温かい雰囲気の中で、のびのびと過ごしていることを感じた。目の前の子どもの姿や子どもの声に耳を傾けながら関わったり、活動を計画することで、子どもたち一人一人が主体的に過ごしている。どの子も受け入れられ、愛されている環境の中で、存在を認め合いながら育ちえるよう配慮されている。

また、職員一人一人が思いをもって子どもと向き合い、連携を図りながら保育を行つて行く中で良好な関係を築けていることを感じた。